

開 心
静 聴
充 満
献 身
奉 仕

日本クリスチャン・アシュラム連盟

冬季号

日本アシュラム

Winter 1984

United Christian Ashrams of Japan

46

▼連盟は創始者の祈りによって各地に生れたファミリーの全国的なネットワークであり、常に新しい家族(単位)の参加を期待している。

創始者スタンレー生誕百年記念

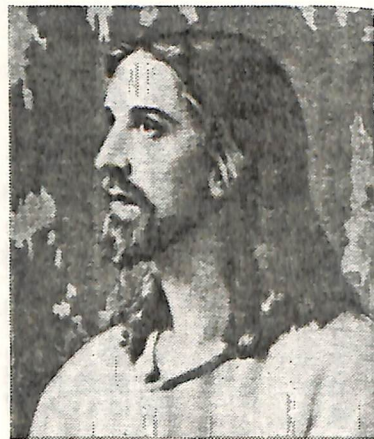
ジョーンズ博士の思い出

中 路 嶋 雄 (口述)

ジョーンズ博士は真に私心なき、キリストに生かされ、キリストに生き切った真の聖者であった。心の限り、慕わしく懐しい、尊敬やみ難い、存在であった。彼を思うと自から心燃やされ、キリストに献身の決心をさせられる。

彼との初対面は「印度途上のキリスト」なる書中であった。昭和五年の夏、彼がシカゴ大学に講演に来た時、学生と共に耳を傾けたのが第二回。その秋オベリンでのラウンドテーブルが第三回目。彼の講演は感涙に咽ばしめ、心の深みに豊かな慰めを与えた。人々は感動の内にひきあげていった。博士も立ち去った。私は涙ながら、その席に残っていたが一人の老牧師が涙に咽びながら私の傍に歩み寄り、肩を叩き、体を抱いて、その感動を告白するのであった。第四回は終戦後、逸早く来日、大阪ではシネラマ劇場で大講演会を開いた時で、立錫の余地なき栄養失調の来会者は希望を回復、散会した。そ

の後、日本を愛しての何回もの来日に同宿、アシュラムの指導を受けた。第10回目、シオンロッジでのアシュラムにおいて彼が委員会の創設を提唱、世界的なスケールの中で日本アシュラムを充実進展させてゆく計画



と組織とを立て、感激の中にアシュラムの前途を委嘱して帰って行った。神戸駅まで見送り、中国地区の牧師に博士を渡し別れたのが日本に於す最後であった。何となく底の知れぬ哀惜を感じつつ、列車が消えて行

っても、ホームに立って茫然と見送っていた。私が最後にお目にかかったのは第一回世界アシュラム大会がエルサレムで開かれた時であった。各地から来集する各国人よりも私は一足先にエルサレムに着いた。博士はすでに到着して来て来る人々を待ちわびていた。彼の部屋を叩くと彼は喜びに満ち、涙しながら「よく来て下さった。日本はとても大切な国です。何卒宣しく頼みます。祈っていますよ。」と言って私の肩をなで、私を抱いてくれた。「あなたの他に誰か来てくれませんか?」と一生懸命に尋ねてくれたが、第一回世界アシュラムへの出席は私一人であった。会議中、博士は車椅子に乗せられ、皆にかき上げられ、重病人の姿であったが、力の限り最後の講演をした。

北米は勿論、南米、アフリカ、欧州、北欧に至るまでアジア、大洋州各地を歩んで全世界にアシュラムを創設していたのは全く驚かされた。彼の死後であったが、第三回世界アシュラムを日本で開くことに決定された時少しは打合せをと思いワシントンで米国の指導者たちに面会したが博士の感化の広く深いのに驚いた

(病院の一室にて口述)
(日本アシュラム連盟副理事長)

編集人 海老沢 直道
発行人 大石 嗣郎
定価 一部60円 千60円

ジョーンズ博士への思慕

四国委員長

宇都宮 充

今を去る一九八〇年(昭和五十五年)の十月十二日、インド・ヒマラヤ山腹にあるサトタルで第四回国際アシユラムが開催された時、サポテンの林に囲まれた小高い丘の上にある故スタンレー・ジョーンズ博士の墓前跪いた私は、大なる感激の涙に咽んだ。言うまでもなくこのサトタルは博士の創始されたクリスチャン・アシユラムの道場である。

博士は誰もが知るように、神と人とを熱愛した平和の使徒であった。日米開戦阻止のために熱心な祈りの運動を起し、最後には米国の大統領に迫って日本の天皇に親電を打たしめるなどの働きを敢行したのであった。博士はまたジョン・ウエスレーの再来とも言うべき今世紀の最も偉大な伝道者であった。メソヂスト教会の最高の栄誉である。ビショップの要職に選ばれたにも拘らずこれを拝辞したのもインドや日本の伝道を最高の使命と感じた志望したからである。日米大戦が終るや彼はいち早く来日して破壊された我が国の山

野に嘆じたが、松山に來られた時、松山東雲学校の学生が廃虚のベースメントの上に立ってハレルヤコーラスを合唱するのを見られて、日本は必ず救われるとの幻と希望とに燃えられた。そして今後、日本とインドとを交互に二年に一回づつ宣教する決意を固められた。爾來、博士は二年に一回は必ず来日を試み、その回数には十度に及んだ。即ち最後は一九七一年二月に八十七歳の高令を以って我國に來られ、四十五の都市で百五十四回の大衆伝道集會を開かれた。これこそ日本を熱愛し日本人を生かすための驚異的な働きであった。また後半には日本にもクリスチャン・アシユラム運動を展開され、四国だけでなく博士の指導によって五、六回のアシユラムが開かれていた。

この日本伝道の旅から帰米された博士はオクラホマのアシユラム集會の夜半に、卒中で斃れ完全な廃人となられたが翌一九七二年には熱愛するインドへ行くことを志ざし家族に守られつつサトタルに赴き、死に至

るまで身を以ってアシユラムの指導に當り、一九七三年一月二十五日インドの病院で八十九歳を以て帰天された。かつて米國を旅行した時、博士の書物や言辭が屢々新聞や雑誌に出るのを見たが、博士は米國のみでなく世界の偉大な指導者であった。至高至愛至純な主キリストの僕であり、今も我々の中に生きて導き給いつつあることを感ずる。その墓前に立つ者の号泣するは独り私のみではあるまい。

(一九八四年一月四日記す)

アメリカ便り スタンレー生誕百年

記念に参加して

湘江 淳一

一月三日の記念行事に参加してきました。前日私共は電車でバルチモア駅に、駅からタクシーでマリオートビル・スピリチュアル・センターに着きました。大分離れた農村地帯にカトリックの行届いた施設です。二日夜から開心の時を持ち、三日朝に静聴の時、朝食後、スタンレーの生家へ行きました。彼の父親が耕していた畑も見ましたが、家は他人の手に渡っていたので中には入れませんでした。木造の素朴な小さい家でした。車に分乗してメソヂスト記念教

会に行きました。スタンレーが出席し回心した教会で礼拝、司會者マシユーズ師の指名で、湘江千代子が交読文のリーダーを勤めました。その後ワグナー師がスタンレーの生涯について証言されました。午後階下で中食した後、インドから来たカマルソン師が講演、彼はワールドビジョンの副総裁という肩書を持つエバンゲリストで、インドにおけるスタンレーの協力者でした。まだ若い人ですが、極めて靈的な感銘深い話をしてくれました。教会での集會を終り、再びセンターに帰り、夕食の席で、日本アシユラムからのメッセージを代読する許しを得ました。少し練習して行つたので一同に通じて感謝されました。マシユーズからいつ英語を覚えてかとお世辭を言われました。その後、聖祭式がビル・バーグ師により守られ、極めて親密な主において一つになる会でした。同師も年配になり枯淡な印象が出てきました。皆が海老沢兄弟に宣しくと言っていました。四日(水)も続いて集會がありました。四日(水)も続いて集會がありました。四日(水)も続いて集會がありました。四日(水)も続いて集會がありました。四日(水)も続いて集會がありました。

一月五日ウエスレー神学校にて

好評 三版

スタンレー・ジョーンズ著

アシユラムの五大原則

(一) キリストへの明渡し

『イエスは主である』

(ロ) マ 書 十章 九節

アシュラムと靈的生活の宣教

三、誰がするか

靈的生活の深化に奉仕するには、奉仕者自身がクリスチャン・アシュラムに深く関わり、その私生活においても、それを実行している人物が望ましいのは言うまでもない。更にその経験をもとにして、聖日礼拝を守ることで十分と考えている人々の生活設計を立て直す指導力を備えている人物、また聖書の研究に精通しているだけでなく、静聴の時を自ら守り、他人にも靈解する能力が備えられている人物、福音を実際の体験している人が望ましい。

そこでまず各教会の教職がアシュラムに参加し、アシュラムの助言者と共に靈的生活を体験して、主イエスの導きの下に最大限の恵みの賜物を互に分ち合うことが大切である、また彼らは共にキリストと神の国のために全き明渡し(サレンター)と献身を励まし合ってすることができ。アシュラムの助言者は教派的関心について理解すると同時に、それをのりこえて、主の体なる教会のために祈禱生活の強化、訪問伝道の原動力・青年フォーラム、医しの業、人生問題の全般に亘って教職とその

教会のために効果的に奉仕することができ。

四、いつ開催するか

この宣教運動は各個教会か地域の数教会の連合(超教派)の発起によってその時期を決定して頂きたい。宣教に時の良し悪しはない、全日本の救霊とその靈的深化を願うなら、

〈靈 交 の 歌〉

新年を迎えて

山根 可 式

新しくまた元旦をむかえけり
この年も主のみあと慕いつ

愛の主にいのちを捧げこの年も
み旨のままに我は歩まむ

白富士のそびえて立てる姿見つ
主の造られしわざのきよきを

八十路へと我入りたれど主に在りて、
心おとらじ成人の日よ

いたむ足杖をたよりに歩めども
なお主の御力に支えられつつ

- (三) 聖靈の啓導と充滿
- (四) 神の国の体験と献身
- (五) 教会への奉仕と伝道

五、どこで催すか

年中何らかの計画が祈りのうちに講ぜられるはずである。

この宣教は希望と祈りのある所なら、どこでも開かれる。都会の大教会、農村の小教会の別はない。神の民、神の家族の一人が祈って神の導きを受けたら、場所は必ず与えられる。あなたが発起人である。あなたの属する教会の靈的生活の深化を祈られるよう、私たちの激文を今こころでお手許に差上げたい。以上二号に亘って述べたことについて、御質問があれば直ちにお答えしたい。全ての教会、全ての教職、信徒の兄弟が何よりも活ける主に在る靈交を体験される日の近いことを祈る次第である。

▼新刊紹介▲

ダヤ・プラカシユ・タイタス著
「御国を来らせ給え」
— 神の国に就ての概観 —

植村 俊 雄 訳

著者タイタス牧師は一九三八年にヒンズー教から改宗し、牧師となったが、スタンレー博士の導きにより再献身をし、サトタル・アシュラムの常住指導者となり、全国の靈的覚醒のために奉仕されているが、八〇

「アシュラムとは何か」
(付) 一日アシュラムの守り方
JUCA小冊子(価百円)

年第四回の国際アシュラムがサトタルで開かれた時、スタンレーによるアシュラム創始五十年祝賀の記念事業の一つとして本書を出版されました。神の国は主イエスと弟子たちが何よりも多く説教した主題であり、スタンレー師によって新しくこの主題を教えられたことにより、彼の信仰は大きく飛躍し、強化されたので、深い感謝の中に神の国の概観をまとめて小冊子を書き、創始者の恵み深い靈前に献げたものです。

神の国は主イエスが既に確立されていますが、地上には未だ実現していません。然し近づきつつあり、既に悔改めを徹底したある人々の間には来ています。

現代キリスト教は地上の教会や社会にのみ注目して、神の国の福音を忘れていくようです。全国の教職、信徒、求道者の一人でも多くが本書を味読されることにより、信仰の再確認と救の達成に進まれることを切望してやみません。(A6判四〇頁 定価二〇〇円、千七〇円、連盟事務局大石嗣郎師へ御注文下さい。多部数の場合、割引いたします。



各地ニュース

◆予告の部

○東京城北アシユラム(第15回)
日時・二月十一日(土)祝日一日
会場・天門教会 中野区野方一、
主題・無くてならぬものは唯一つ
助言・神山、有馬、島、海老沢
会費・千円、申込・天門教会へ、
○東京教職ミニ・アシユラム
三月十二日(月)午後二時より
稲城教会にて、牧師、細川静
稲城市東長沼一〇八六(南武線)
○石神井アシユラム黙想セミナー
四月三十日(月、祝)午前十時、
練馬区石神井町六一二〇、清心幼
稚園にて、助言者・海老沢宣道、
会費不要・各自弁当持参のこと、

◆報告の部

▼札幌アシユラム(第四回)
既報のように去る十一月三日(祝)
朝十時から真駒内青少年会館に東京
から助言者として関東地区委員長の
岡田実師(新宿西名与牧師)を迎え
一泊二日で開いた。参加者は昨年の
約二倍(四七名)岡田師の卒直な自
己反省の告白により一同を関心に導
かれました。丁度ある新興宗教の研
修会と一緒に、罪の自覚から出

発するアシユラムとの鮮かな対照を
示され感謝しました。今まで榎本ア
シユラムに参加していた兄姉と共に
守り、喜んで貰いました。これから
共に札幌アシユラムの灯をかがげて
行けそうです。三回の静聴の時にヨ
ハネ福音書十一章から二一章までを
分けて恵みの分ち合い、大きな恵み
を頂きました。
去る十二月五日に委員会を開き、
感謝と反省、明年も一泊二日を守る
こと、三月頃から広報を発行するこ
となど相談しました。(加藤 享)

▼関西アシユラム(第17回)

既報の通り去十一月二二―二三日
(祝)千里山シオンロッジで開催。
「聖き支配」(ロマ三の二四)を主
題として委員の諸牧師が助言を努め
二十教会からの集會者(四九名)の
一人一人は深い喜びをもって散会し
ました。九教会から特別献金あり、
席上献金と合計約三十万を与えられ、
連盟へ五万円の分担金を送ることに
した。

地区内で教会単位のアシユラムを
守る所が、扇町、香櫛園を初め年々
増加してきたことは感謝である。

▼四国アシユラム(第16回)

既報通り去一月十五日(日)午後
から、初めて香川県下で国分の青年
センターを会場として海老沢宣道師

(理事長)を助言者に迎えて開いた。
高松新生教会(唐渡師)の兄姉中心
に五教会から十五名参加。主題「イ
エスは主である」の下、開心の時か
ら全き明渡しへの歩み出し、祈りの
細胞と連鎖に入り、翌朝は静聴の時
(宇都宮)にロマ書八章から御声を
きいて恵みの分ち合いをし、朝食後聖
書の時はマタイ十六章の靈解を受け、
互に決意を証して祈り合い、中食後、
最後の充滿の時には使徒行伝一章に
より受霊の備えが与えられ、祈りの
うちに一同聖霊の降臨に満たされた。

なお開心、聖書、充滿の三回は海老沢
師の打ち溶けた和やかな導きを受
け、一同アシユラム生活の喜びを体
験することができ、感謝に満れつつ
再会を約して家路についた。

▼東京教職ミニ・アシユラム

去る一月九日(月)午後二時より
更生教会にて、海老沢、藪本両師の
助言により守った。出席十五名。

会員消息

中路 嶋雄師、年末に要心しておら
れたが病状勝れず一月九日に入院
療養されている。御全快を祈る。
村上 東師(東北)心筋梗塞で昨夏
より入院療養中、御加情を乞う。
平田 久師(札幌事務局長)アシユ
ラムの直前に盲腸炎で入院手術を

受けられたが、経過良好、間もな
く無事退院された。感謝。

淵江 淳一郎、渡米留学中、ジョー
ンズ生誕百年記念行事に出席、来
る三月末に夫人を残し帰国される。
海老沢宣道師、去十一月は逗子教会
十二月八王子駅前教会、一月松山
山越、石神井、江古田の諸教会で
礼拝の御用に当った。

山根可弑師夫人恵代姉
去る一月二八日早朝永眠され、二
九日池上教会にて葬儀執行、謹み
て哀悼す。

総務局より

四五号報告以後も連盟の活動を支
えるため、地区や有志から尊い賛助
献金をお送り頂き、感謝申し上げます。

▼献金報告(前号以降)

- 関西アシユラム(83年度) 五万円
函館千歳教会(白川牧師) 一万円
海老沢 宣道(4) 一万円
岡田 実(札幌の感謝) 五千元
遠藤 絵子 三千元
小計 七八、〇〇〇

- 八二・三年度累計六三〇、〇〇〇
書籍売上金
〇八二―三年度収入累計
二六五、〇二〇円

尚、スタンレーの「神の然り」や
タイトスの「神の国」他の書籍が好
評です。まだの方は至急御注文を。

▼アシユラムとは故スタ
取り入れて創始された

・ジョーンズ博士がインドの退修方式を
ト教の新しい祈禱生活運動である。

東京都目黒区中央町1-21-10
日本クリスチャン・アシユラム連盟
碑文谷教会気付